



千代田

まちづくりサポート通信

(財) 千代田区街づくり推進公社 1999年11月 No. 2

“住みよいまち”へ積極提案



まちづくりサポート最終発表会

千代田のまちに活気をよみがえらせ、住みよく魅力的な環境にしよう、と活動中の“市民”グループを支援する「第1回千代田まちづくりサポート」の最終発表会が、9月25日(土)、神田さくら館で行われました。15団体の発表は、いずれも千代田のまちづくり意識の高さを表す素晴らしいものでした。

発表会では、さくら館の広いロビーのぐるりに設けたブースに、各グループがたくさんの写真や手製の地図、表などを貼ったり、精巧な模型を用意したりして熱のこもった報告を行いました。中にはノートパソコンに自作のコンピューターグラフィックを表示したり(上の写真)、紙芝居方式をとるなどの工夫も見られました。また、自分たちで作った祭りにちなむ扇などのグッズを販売したグループもありました。

発表内容と審査員の講評は、2頁以降

で紹介しますが、神田の祭や市場などの歴史的な調査・研究、健康づくりの道路や公共トイレのマップづくり、都心居住の提案など多彩でした。この成果を今後、実際のまちづくりにどう生かすかの課題はありますが、素晴らしい成果にますますの活躍が期待されます。

この事業によるもう一つの収穫は、サポート活動を通じ、各グループが交流できたことで、地元の人々と他地区から参加した若い人たちが、千代田区のまちづくりについて意見や情報交換をし、

これからも協力し合うそうです。

「千代田まちづくりサポート」は、千代田区街づくり推進公社が、昨年創設したもので、千代田区のまちづくりのために活躍するグループなら、区内在住、在勤者に限らず、国籍も問わないユニークなもの。また、区と区内の企業や個人の賛助会員の“出資”で運営される公社の事業だけに、助成金が税金ではない点も珍しいことです。

助成金は、年間総額 300万円。活動内容により、35.5万円から7万円まで金額は異なりましたが、「助成金が、活動のはずみになった」と、参加グループの人たちは言っています。



最終発表会プログラム

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 平成 11年 9月 25日 (土) | |
| 神田さくら館 1階 多目的ホール | |
| 11:00 | 受付開始、ブース設営 |
| 12:00 | ブース公開・昼食 |
| 13:00 | 開会の挨拶 千代田区街づくり推進公社 理事長・千葉 貢義 |
| 13:05 | 活動内容の最終発表(15グループ) (各グループ、質問とも5分以内) |
| 15:35 | 休憩・ブース公開 |
| 15:50 | 講評 審査委員より |
| 16:10 | 閉会の挨拶 |
| 16:40 | 交流会 |

| | | | | | |
|-----|--------------------|---------|----------------------|----------------|----------------------|
| もくじ | 活動発表 | 神田SU(ス) | 3 | 人のいる広場・道づくり研究会 | 5 |
| | 江都天下祭研究会 神田倶楽部 | 2 | 防災公園研究会 | 4 | 審査員講評 |
| | 江戸ゆかりの山車フォーラム実行委員会 | 2 | TOKYO住環境研究会 | 4 | |
| | 飯田橋地域の開発を考える会 | 2 | 千代田健康活動クラブ(CHAO・チャオ) | 4 | 各グループのアンケートから |
| | まちづくり神田工房 | 2 | 歴史・文化のまちづくり研究会 | 4 | |
| | 牛込見附復活検討研究会 | 3 | 「神田を往く」 | 5 | 賛助会員名簿 |
| | 「みらい」都心居住促進研究会 | 3 | KAWAYA(カワヤ) | 5 | |
| | | 3 | 神田市場研究会 | 5 | |

最終発表会

15団体、多彩な成果を披露

最終発表は、15グループすべてが行いました。卯月盛夫・審査会長の分類によると、その活動内容は次の6つに大別されます。

(1) 祭りの調査やイベントの計画を軸に、千代田に誇り——シティプライドを取り戻そうとするもの。

(2) 都心のオフィスを住居にしたり、定期借地権を活用して都心居住を考えるなど、住まいの問題に取り組むもの。

(3) 防災、環境保全、遊び場確保などの観点から、公園・広場など屋外

の公共空間に着目したもの。

(4) 健康づくりなどのためのウォーキングルートと施設を調べたり、公共トイレの調査・研究などに基づく「マップづくり」の活動。

(5) 川や問屋街、かつての神田市場などを特別な視点からとらえようとする活動。

(6) 既存の街づくり協議会の限界を越えた新たなまちづくりや、地域観光を通じたまちおこしを考えるもの。

※掲載は、登録順。

江都天下祭研究会 神田倶楽部

〔神田地域を中心とした歴史的文化的研究会・見学会の開催、祭を通じての「まちおこし」活動、本会の目的に関連する資料の収集・出版〕
(15万円)

「まちづくり」の最大のテーマとして「そのまちに住みたい」という需要が必要で、そのためには地域おこしをしなくてはならない。神田には「日本三大祭の



一つ」と、言われた素晴らしい神田祭がある。そこで、「江戸錦絵にみる神田祭ルートウォーキング」や、江戸時代、神田でも行われていた山車による祭を今も行っている静岡県・横須賀の三熊野神社の祭礼見学会、講師を招いての研究会も開催した。

また、神田神社宮司、氏子の各町会役員、氏子地内の東京電機大学写真部の協力を得て、神田祭の各町の神輿をくまなく撮影、写真集『神田祭神輿名鑑』を出版する予定。



Q・神輿のルートを行くとき、障害物があると思うが、何か提案はないか。

A・電線の他、張り出した道路標識などが障害になっている。できるだけ電線の地中化を進めていただきたい。

江戸ゆかりの山車 フォーラム実行委員会

〔江戸ゆかりの山車フォーラム '99 甦るか? 天下祭〕 (20万円)

江戸時代の天下祭を華やかに彩り、將軍の上覧も受けた江戸ゆかりの山車を甦らせるなど、伝統文化の継承とともに新しい祭りの創造、コミュニティの再生を願って昨年からの活動している。助成金により、98年の第1回山車フォーラムの記念号を作成、活動をアピールできた。

99年度は、9月23日、江戸博物館で、第2回フォーラムを開催。狂言師・野村万之丞氏に記念講演を、また今も由緒ある山車、屋台、囃子の祭りを行っている近郊都市の祭人たちをパネリストに、祭りの現状と未来を語ってもらった。その



模様はインターネットで世界に発信した。当日は天下祭にちなんだ特製の扇子や手拭いなどを限定販売。日枝神社、神田神社の氏子の若者たちにホールで神輿を

「千代助」 「千代田まちづくりサポート」のマスコットの愛称です。一般から募集



し、「千代丸」「サポート太郎」「サボちゃん」「マッチ」「ソイヤくん」など多数の応募の中から審査会委員の選考で決めました。

- ◎ グループ名
- ◎ [テーマ]
- ◎ (助成金額)
- ◎ 発表内容
- ◎ 審査会委員からの質問とその回答

※内容は当日の発表と発表用資料を元に事務局の責任においてまとめたものです。紙数の関係で一部を割愛しています。

担ってもらうなど大いに盛り上がった。最終的な目標は、江戸開府400年を記念し、2003年に山車と神輿競演の天下祭を開催することだ。



Q・フォーラム参加の山車を持つ市町村はどのくらいあるか。

A・現在7市町村。今年は熊谷など5都市から参加があった。

飯田橋地域の開発を 考える会

〔飯田橋JR貨物関連用地等の開発に伴い、どのような開発が望ましいか、また、飯田橋地域にどのような効果・影響があるか〕 (20万円)

5ヘクタールに上るJR跡地の開発をきっかけに、快適に生活できる街づくりを考えることにし、自由な発想で夢を語り合おうとスタート。20回近い勉強会、見学会を通して討論、6つのテーマでまとめ、イメージイラストを入れた19頁の冊子『私達の街づくり』を作成した。

例えば、飯田橋駅の周辺、特に東口は旧態依然で、長い信号待ちや複雑な交差点を渡らなくてはならない。そこで駅舎



を思い切って変え、2階に上がると360度どちらでもアクセス可能な建築にしようと提案。

また、日本橋川に、むかしのように船着き場を設けたり、高速道路の下をライトアップするなど親水性を持たせたり、開発によってできる道路や広場が既成の街と駅との“壁”にならないよう回遊性のある活気ある街づくりを考えた。



Q・勉強会はどのようにしているのか。

A・約2時間講師の話聞いた後、自由討論している。自分たちだけだと空回りしてしまうが、専門家が入ることで現実味を持って進められる。

まちづくり神田工房

〔神田の街づくりを公園から考える〕
(21万円)

(紙芝居方式で、写真や絵などを順に説明) 子供が遊ぶ砂場をネコに占領されたり、ホームレスがたむろしたりする公園を、都市のオアシスとして取り戻すのが目的。神田地区(神保町、御茶の水、水道橋付近)にある区立公園3、児童遊園4、小学校跡地2、公開空地14か所を調査し、印象と評価をまとめた小冊子『ひ



らけ!玉手箱』を作成、配付した。

その後、典型的な公園4つを選び、平日、休日、男女別などによる使われ方を1時間おきに詳細に観察した。その結果、例えば、錦華公園は居心地はよいが、遊具が無用の長物のように思える、三崎神社近くの児童遊園は、都心では珍しいブドウ棚があり、親しまれる公園づくりのヒントになる、などが分かった。今後は特定の公園や公共施設を調査の上、提案を行い、まちづくりにつなげたい。



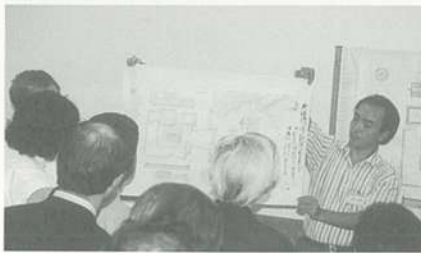
Q・『ひらけ!玉手箱』の部数と配付方法、反響などは。

A・500部を町内会や、区の施設に置いて無料配付している。FAXで励ましの言葉ももらった。

牛込見附復活検討研究会

〔牛込見附をいかした地域観光まちづくり〕
(35.5万円)

歴史的遺産の江戸城牛込見附御門を、どこまで復元できるか、一年間取り組んできた。まず現状の図面と、古地図をもとにした牛込御門復元図を作成、200分



の1の石膏模型を作った。多くの人にかつての牛込見附がどんなものだったかを知ってもらうため、来年、着色した模型を完成させ展示する計画である。

また、地元8町会の協力で70問のアンケートも実施し、貴重な情報やご意見を頂戴できた。さらに、専門家も含めた現状調査の他、松本城、上田城址、復元小田原城など全国各地の城や城跡を視察調査し、古い図面や建築史資料、写真撮影など参考資料を収集した。

地域観光商業の創造によるまちづくりにつながるものと自己評価している。



Q・調査も模型も本格的なのに驚いた。ヨーロッパの古都市などでやっているように復元した古地図をポスターやカレンダーなどにして販売してはどうか。

A・復元活動を支える観光グッズ商品の試作も進めている。

『みらい』都心居住促進研究会

〔定期借地権を活用した都心居住促進策〕
(14万円)

中間発表以降の活動は下記の通り。

1、住民アンケートの集計・分析・評価と、一部の方と個別の面談をした。そ



の概要は、多くの人が「住み続けたい」と思っており、共同化については賛否拮抗。住み続けることに賛成の人は「便利だし、ずっと住んでいるから」と回答、反対の人は、税が高い、商店が少ない、日当たり、風当たりが悪いなどインフラ・環境の問題を指摘した。ただ、近所付き合い、町会活動の活発さを評価しており、地域コミュニティは発達している。

2、公開勉強会を開催した。5月に「つくば方式」で有名な建築研究所の小林秀樹博士の「定期借地権の活用による敷地の共同化と都心居住」。8月に住宅金融公庫の担当者から「都市居住再生融資制度の概要について」。

3、4つのグループに分かれ、事業の採算性、事業の仕組み、コミュニティ、街並みの形成をテーマに検討した。



Q・調査から何か見えてきたか。

A・各地主の土地が小さいため効率的に利用するには共同化しかない。土地信託方式を提案しているが、ちゃんとした計画なら聞いていただけと思う。

神田SU(ス)

〔オフィスを人の住む場に変える〕
(24万円)

テーマのとおり、ビルの中に他に例のない面白い土壁の空間ができたと思う。3~4年前から改装を始めていたが、助成を契機に、近所の店にちらしを置いた



り、インターネットや雑誌で協力者を募集したところ、女性を中心に30人位のボランティアが集まってくれ、みんなで楽しみながらつくることができた。

7月には塗り壁ワークショップ入門編を開き、左官屋さん基本から教わったり、8月にはモロッコ建築のスライド会を開いたりした。単に自分の家をつくるだけでなく、その場をまちに開くことで「千代田に人を集める」というハードルを一つクリアできたのではないと思う。



Q・今日、見学させていただいたが、土

の壁に癒される気がした。まだ完成ではないのか。また、一般開放するのか。

A・一通り仕上がったが、まだ完成はしていない。今後も興味ある人は家づくりに参加してほしい。また、健康体操や展覧会などの場に提供したり、いろいろな計画も立てている。サポートの方のイベントなどもここを使ってほしい。

防災公園研究会

[千代田区内小公園の防災下に於ける調査、研究及び施設開発提案]
(20万円)

神田の中のモデル地区の空き地、空き家の現地調査を行ってマップを作成。夜間・昼間人口などの資料収集や、化学、機械、施設などの専門家の意見を聴取した上、4つのブロックを人口地盤化した防災公園として提案することにした。

(模型を分解しながら説明) 1階に備



蓄倉庫を設け、災害が発生した場合は、ここを仮設宿舎にする。2階は人工地盤を設定して児童公園・ポケットパークにする。みんなが普段からアクティブに使えるスペースにし、当然、弱者のために出入りにはゆるやかなスペースを設ける。地下は汚水処理などとする。

公園の遊具類は通常はベンチだが、いざという時は煮炊きやテントの抑えに使えるなど、多機能なグッズを用意する。

◇

Q・公園が人工地盤の上では使いにくいのか。

A・これ自体がシンボリックなもので目に見えた形で提案したかった。全体の都市空間の中での整合性など今後検討していきたい。

TOKYO住環境研究会

[バブル期における富士見地区の都市空間変貌過程に関する記録的研究]
(22万円)

(ノートパソコンのディスプレイに写



真やCGを出しながら説明) 富士見地区のバブル期の町の変貌を、デジタルデータに置き換えながら記録している。まずバブルの前と後の町の姿を写真により対照させ、建物をもとより道路や電柱などの環境の変化を拾いだした。

さらに、デジタルビデオという新しい方法で、80年代の静止画と、現況の映像などを対比させた。映像は静止画より情報量も多く、雰囲気もわかる。

もう一つ、83年から2年ごとに住宅地図を集め、コンピュータグラフィックで建物のボリュームだけだが、町の変化の状況を再現した。分析には至っていないが、これで変貌のスピード感や、表通り、裏通りの変化の様子がとらえられた。

◇

Q・研究成果をインターネットで見られるようにしてほしい。また、コンピュータグラフィックのほうは、できればビル各階の用途も出せないか。

A・ホームページは既にある。各階の用途表示も可能だが、残念なことに以前の地図だけだと、階数も分からないものもある。

千代田健康活動クラブ「チャオ」

[健康作りナビゲーションマップとケアガイドの作成] (35.5万円)

結成4年目を迎える会員が基本的なこととして楽しんでいる健康作りのためのウォーキングのルートマップを作成した。より多くの情報を得るためアンケートを実施、335人から寄せられた様々な情報



も参考に、実際に歩いてみて8つのコースを選定、まず4点を完成させた。

マップは、「日本の玄関探訪コース」(東京駅一皇居外苑一東御苑周辺。車椅子利用者、歩き慣れない人、万人向き)や「爽やか文化コース」(駿河台エリア。若者、元気な中高年、万人向き)などと命名。各コースとも体力に応じて3ルートを選び、トイレやベンチの場所などの説明の他、アドバイスや血圧、心拍数などを記入できるメモ欄も付けた。持ち歩きやすいように各コース1枚とした。

◇

Q・これだけの調査と地図作りを通して何か提案はないか。

A・本当は、「一緒に歩いてみるかい(会)?」などもやりたかった。今後、企業にスポンサーになってもらうなどして、無料配付できればと思っている。

歴史・文化のまちづくり研究会

[千代田区歴史的建造物マップづくり] (18万円)

神田多町を中心とした“タケノコ型地域”を対象に、どういう歴史的建物がどのくらい残っているかを調べた。さほど



狭くないエリアだが、戦前の建造と思われる建物が、目視で181棟あった。特に注目したのは、関東大震災の後に建てられた「看板建築」。壁面を銅板張りやモルタル塗りにした準耐火建築が多く残っていること。山車桁造りやマンサード屋根など面白い建物も結構あった。

建物は古いが、生活している住人は、「神田が好きだから」と話していた。バブル崩壊以降、この地域は空き地、空き家が多いのが気になった。当初、地元の人とのコミュニケーションが難しかったが、飛び込むと親切に話をしてくれる家もあった。“サポート仲間”の山車フォーラムや神田倶楽部の人の協力で、いろいろ教わるのができて楽しかった。

◇

Q・181棟中、保存を考えたほうがよいと思った建物はどのくらいあるか。

A・約3分の1はある。歴史的建造物の修復、改築には、特別融資などもあるので、今後、地元の人と保存の方法などについて話をさせてもらいたい。

「神田を往く」

「失われゆく下町神田の歴史と文化の発掘と調査——主婦のみた衣(医)食(職)住を中心として——」
(11万円)

神田の文化は、江戸時代からの継承ばかりか、明治時代の衣食住による文明開化の発信基地でもあった、という観点から研究した。まず「明治事物起原」(石井研堂著・ちくま学芸文庫・全8巻)の



中から神田の衣(医)食(職)住に関するものをピックアップしてカードにし、年表を作った。

新聞・雑誌にもいろいろ情報がある。例えば、明治37年の新聞には、神田で女子計算養成所を作って、女性の自活の道を広げようとした広告も載っている。

文献だけでなく、老舗も調べ、「山なれば富士、白酒なれば豊島屋」と名を馳せた旧神田猿楽町の豊島屋本店の15代当主から聞き書きもした。

Q(助言)・せっかくの研究だから公表すると良い。明治時代のレシピでカレーを作ってみたという話だが、例えば、「SU」を会場に、それを食べる会を開いてはどうか。

KAWAYA (カワヤ)

「千代田区における公共トイレの使い方・使われ方」
(23万円)

旧神田区にある公園や道端にある公衆便所約40か所と公共施設内のトイレを調査し、その情報を載せたニュース『かわや通信』やホームページを作成した。中間発表以降は、昌平橋、神田橋際な

どにできた新しいトイレと、小学校のトイレの使われ方などを調べた。共通の問題点は、あまり使われていないことだった。

また、障害者用トイレの調査では、男



女共用だったり、親子連れで入れるトイレなどにも問題があった。JR駅などの車椅子対応トイレについても、障害者専用なのか一般の人も使えるかなど不明確な点があり、駅の場合、その中からホームレスの人が出てきたりして本来の使われ方がされていない点も目についた。

Q・調査した公衆トイレはどういう人がどの程度の頻度で利用しているか。

A・主に使うのはタクシーや宅配便のドライバーなどで、女性はほとんど使っていない。

神田市場研究会

「市場としての神田」 (7万円)

「神田のここは、市場である」という観点から、1、秋葉原を中心とした電気街 2、神田神保町を中心とした印刷・出版・書籍街 3、岩本町などの繊維・衣類街を対象に、商店街の変遷やどんな店がどう分布しているか現況を調査した。

調査方法は、一軒一軒ひたすら足で歩



いて地図にプロットすることでその結果を検討した。例えば、(詳細な地図と各階ごとの業種を色分けした図面を説明しながら)秋葉原中央通りの電気街では、低い階はパソコンやモバイルショップ、B1や3、4階はアニメなどといった具合で、この電気街は、連関し特化し続けることから新たなものが生まれる街であ

り、多様な年代が共存し、多様な業種が共生する街であることが分かった。

Q・神田を商業・市場でとらえるというテーマ設定は嬉しい。神田には本屋街やスポーツ店街もあるが。

A・その分野もやった。タウンページのインターネットを業種ごとに検討してプロットしたが、印刷・出版・書籍だけで53種もあった。まだそれを支えるコミュニティ、物の動きなどまでは見えず、結論を出すにいたっていない。

人のいる広場・道づくり研究会

「番町・麹町『満喫会』の旗揚げ」
(14万円)

番町・麹町地区は、お屋敷町として風格あるイメージが強く、千代田区の“客間”のようだが、そのまちを有効に生かす成熟した魅力あるソフトが足りない感



じがした。そこで、まちに対する高い意識を持つ人たちのネットワークづくりをする会として『満喫会』と命名、発足させようと考えた。

まず、多くある大使館のイベントを調査して、ベルギー大使館の「ボタニカル・アート展」に着目、植物画の講習会を開いた。これをきっかけに専門家と共に番町・麹町の「緑を見て歩く会」を行い、歴史的な古木の現状や公開空地の植栽などを調査、チェックポイントを記した地図も作成した。そしてこれをネットワークづくりの一つの足掛かりとし、今後も魅力ある店の誘致などを行い、緑を軸にした「うるおい」「くつろぎ」「ふれあい」「にぎわい」のある広場や道づくりのため活動したい。

Q・お屋敷町の人を今後どうやってつないでいくのか。

A・町会の人たちとのつながりを強くし、仲間づくりをしていきたい。

幅広く実り多かった活動

審査員講評

(敬称略)

「どう伝えるか」工夫を

北沢 猛 (東京大学助教授)



大変楽しい発表会だった。これだけの情報とおもしろい提案があるのだから、もっとたくさん

の人に会場に来てもらい、聞いていただければよかった。来年からは、より盛大にやりたいと考えている。

全体を通して、最後のプレゼンテーションを見ても、各グループの活動自体が、多種多様であったことがよかったと思う。丹念な調査やイベントをしたり、実際に物を作ったり様々で、次の段階で各グループが組み合わせられれば、さらにおもしろくなるという期待をもった。

また、種々に作られたユニークなグッズなどは、活動をどう伝えていくかというときに、やはり物になっていると伝えやすい。話題にのぼったインターネットの活用などもその一つの方法だろうが、どう伝えるかという点を今後も工夫してほしい。

それらのグッズを、無料にするか有料にするかについては、安くても有料の方が、わずかでも活動の資金に還元できるし、やはり、買った人も大切にすることはないと。

千代田区にはボランティア活動の歴史がある。各グループともそれがベースとなっている。今後もその歴史的な成り立ちを忘れずに意識してやっていただきたい。そうすれば、千代田区がさらに多くの人たちに理解され、活動に参加したいという人が増えることと思う。

実践活動への道づくり

伊東 敏雄 (賛助会員)

「まちづくりサポート」が対象とする研究は、限られた千代田区というエリア内である。やっている人やグループも千代田区の人が大部分であるし、しかもテーマは「まちづくり」だということ。それをもう一度ふり返り、継続してなされる方も、改めて確認していただきたい。



活動には二つある。一つは勉強、学習活動、調査研究をする活動。これも立派な活動だが、もう一つ重要なのは、実

践活動である。「健康作りナビゲーションマップ」の作成などがそれに当たる。

この二つの活動の中間で、しっかり考えておくべきことがあるはずだ。まず調査がある。次に調査したことを分析する。さらに分析したものについて、仮説をたてる。立論し、それを立証し、評価して、今後の展望につなげていくということである。

さらにそこから、一つの現実的な提案として、ある種の理論が生まれてくればよい。理論までいなくても、ある計画の提案がほしい。たとえば千代田区の政策決定の参考になるようなもの。それがこういう調査、研究活動の到達点だと思う。

活動には少なくともある結論がほしい。それは提案、計画、あるいは政策の提言ということだが、それがさらに実践にいたれば最高である。

交流会の“横糸”をぜひ

三枝 敏男 (公社評議員)

アンケート調査の結果を見ると、「地元



住民とうまくやっていくのがむずかしい」という意見が多かった。その解決策だが、結論を言えば、みなさんが地

元の行事のお祭り、縁日など町内会の行事や、商店街のイベントに積極的に参加することだ。

意外に神田っ子というのは、最初は、口のうるさい人がいたりするが、いったん溶け込むと、そういう人ほど親切だ。だから、自分から積極的に入っていく、それが一番の解決策である。

もう一つ、「お墨付き」が必要だということだが、「まちづくりサポート推薦事業」のようなものがあれば、活動がもっとやりやすくなるのではないかと。

それから、「広報」についての要望が多

かった。もっと活動を知らせてほしい、発表する場がほしいという声もあった。

これまで千代田区は、まちづくりに対して種々の活動をしているが、この「まちづくりサポート」には新しいアイデアや新しい活動の仕方がどんどん出てくる。これを千代田区のまちづくりの主流に位置づけていくとよいと思った。

時間的な制約の中で、ボランティアのむずかしさも体験されたと思う。でも、続けてよかったと心底から思っている人が何人もいる。そのことが、いちばんの成果だろう。みなさんは第一期生として、横のつながりの交流会をぜひ自主的に作り、末長く活動していただきたい。

行政と共存の市民活動

平岩 千代子 (電通総研副主任
研究員・NPO)



まちづくりを自らの市民活動としてつくりあげていくことには、行政が仕事として行う場合とは異なる貴重なものがあることを知った。その市民活動を続けていくには、何よりも「何のために、なぜやりたいのか」という目的意識をもつことが大事だ。それを見せていただいた。

NPOなどの抱えている大きな課題は二つある。一つは人材、二つ目は資金である。実は人材は、資金よりも重大な問題だ。非常に深く考え、実践をし、現実の行政サイドへ提案できる計画をつくりあげることのできる人材がいる。これはすばらしいことだ。

行政とNPOの関係が話題になるとき、ギブ・アンド・テイクの関係が重要だと言われる。とかく市民活動というのは、テイク・テイクになりがちである。ところが、きょうの発表会では、市民活動が行政に対してギブできるものがたくさんあることを実際に示してくれた。

今後は資金的なサポートを、限られた資源の中でサポートしていただくだけではなく、広い社会に支えられていく仕組みを作ることが、主催者側に課せられた課題ではないか。千代田区の企業も含め様々な資源と、市民の活動とを、これからどうネットワークして、より大きな成果として根づかせていくか。それも主催者側の課題だと思った。

地道な企画調査の成果

森 まゆみ (作家・地域誌編集人)



よくもこれだけの予算でこんなにすばらしい活動ができたと、驚嘆している。結論や結果としての行動も大事だが、そこに至る地道な企画調査というものを

積み重ねていくことが大切だと思う。

実をいえば、当初は応募がなかったらどうしようなどと、審査員一同案じていたのだが、たくさん応募があり、これだけの活動ができたことに千代田区の文化水準の高さを知らされた。

千代田区に勤務していた優れた学者で、私の尊敬する鈴木理生先生が、「都市というのは市場である」と。つまり人々が集い、そこで交流があり、物と物の売り買いがあり、あるいは人のやり取りがある所——それがなければ、住宅がいくらあっても、都市とはいえないという先生の言葉をいま改めて噛みしめている。

やはり、都市としての豊かな交流と売り買い、それを行うセンシティブな人々が集まってこそ、これだけの多彩な研究活動が生まれたのだと痛感した。

私は隣の文京区で15年間雑誌を発行し、建物の保存や地域の問題を考え、活動してきたが、今回、自分にとっても刺激的だったのは、公園や公衆トイレの問題。これは今まであまり考えなかったので、負けたなという感じがした。私にとっても良い勉強をさせていただき、みなさんの無私の行為に感銘を受けた。

新しい提案をどう生かす

山崎 芳明 (区都市計画課長)

第一回目で、各グループが貴重なデータを集め、新しい提案もしている。ただ、それをどう生かすかという点が、時間が



この1年の成果を土台に

卯月 盛夫 (会長・早稲田大学教授)

審査員もみなさんも、手探りの状況ではじめて公開審査会から、1年という歳月がたった。とにかく、1年活動したことで、いろんな感慨をお持ちだろう。ぜひ、この成果を2年目、3年目につなげて、活かして欲しい。

しかし、この「まちづくりサポート」という助成金は、永遠に続くものではない。どんなによい活動でも、長くて2、3年である。その中でできること、あるいはやらなくてはならないことを計画的に進めて欲しい。その辺を次回の申請に向けて、各グループで話し合っていただきたい。

この千代田のまちづくりグループの活動は大変センスがいい。パンフレットひとつにしても、模型にしても、1年目にしては、かなり目を見張るものがある。やはり、これまでの千代田区の都市の歴史、住民としての生活の歴史がこの中に生かされているのだと思う。これは、千代田区の財産、個性である。さすが歴史ある千代田区の事業であると感心した。

きょう発表された成果あるいは、報告書というのは各研究会、グループのみなさんの共有のものであって、審査員のものでもないし、公社のものでも区役所のものでもない。だから、公社や区役所は助成したからといって、これを勝手に使ってはいけない。

足りなかったせいで、出ていないように思う。それぞれに、ぜひとも他のグループの意見なども聞いて考えていただきたい。そうすれば、そのデータやまとめた成果の活用法が幅広く開けるように思う。

「まちづくり神田工房」の研究は、広域空間、公共広場についてよくまとめている、このまま区の行政指導などに活用したいほどだ。ただ一点、特に公開空地と建築物との関係などにも触れ、ぜひ検討してほしい。

また「神田SU(ス)」についてだが、これは実際に

なぜならば、これは委託ではなく、助成金だから、成果も責任もみなさんのものであるわけで、その基本は大事にしたい。

それから、議論の中で出た「お墨付き」については、これを与えるのは誰なのかという問題が、きわめて重要である。



一応、「みんな」の代表としての審査員が決めるわけだが、その「みんな」という感覚をどういうシステム

で決定していくかが問われているように思う。つまり新しい「公共」が求められているのである。

もう一つ、きょうの発表のプログラムの作成や会の進行なども、みなさんの中から、代表を出して運営していくという方法もある。各グループが協力して、会場の設定などを自分たちですることも不可能ではない。そのための話し合いをこれから進めていくことも必要かもしれない。そうした自主自立の発展の仕方も含めて、一期生のみなさんの代表で相談し、公社や審査員に提案していくことも大切ではないかと思う。

一般の人たちに伝えるのと同様、寄附金でサポートしてくださる賛助会員の人たちにも配慮し、アピールしながら、これからも、この活動をますます発展させて欲しいと願っている。



現地で作業が行われていることで、たぶん、終わりのない活動なのだろう。さらにグループの輪を広げていただけ

ればと期待している。ただ、オフィスに住むということだが、どの程度の人たちが都心のあのような空間に住むことをよしとするのか。個人差も世代の違いもあるだろう。その辺を今後検討し、結果を教えてください。

次に「[みらい] 都心居住促進研究会」は、いま最重要課題の都心居住についての研究で、実際的な問題だ。まだ提案途中だが、ぜひとも引き続き研究し、具体的なモデル事業の段階まで追求していただければと思う。

人とのつながり誕生 最終発表会アンケートから

初年度の活動を終えた各グループのメンバーのみなさんに、1年間を振り返っての感想をアンケート調査してみました。

「各グループの活動にサポートはどのような点で役に立ったか」という質問には、下記のような結果でした。

- ・ 経済的支援…24%
- ・ 人的ネットワークができた…22%
- ・ 活動を始めるきっかけになった…19%
- ・ 各グループ間の交流ができた…14%
- ・ とにかく楽しかった…11%
- ・ マスコミで取り上げられた…5%
- ・ その他…5%

やはり、みなさん経済的なサポートがもっとも役立ったようです。

この他に記述式で書いていただいた感想を3つのグループに分けて、代表的な意見をまとめてみました。

グループの活動内容について

- ・ 1年ではやりきれなかった部分があるので、もっと継続する必要がある。
- ・ まちづくりについていろいろな新しい発見があった。

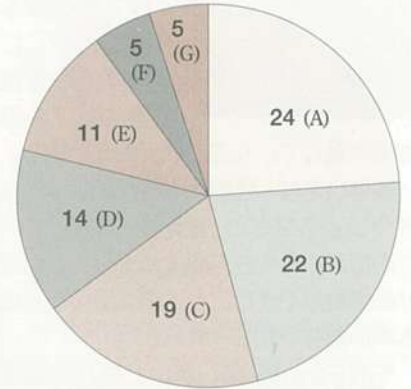
グループ外との交流について

- ・ 他のグループと交流ができていろいろな意見が聞けたり、ネットワークができた。
- ・ 活動を通してまちで生活している方々と知り合うことができ、様々な意見が聞けた。
- ・ マスコミの影響力の大きさを痛感した。
- ・ まちに入ることの難しさを感じた。

サポートあるいは会社に対する要望

- ・ もっと助成金を増やしてほしい。
- ・ ずっとこの事業を継続してほしい。
- ・ 会議室やコピー機を提供してほしい。

・ もっと広報活動をしてほしい。
第2回のサポートではできるだけみなさんの意見を採り入れていきたいと思えます。1年間お疲れさまでした。



- (A) 経済的支援
- (B) 人的ネットワークができた
- (C) 活動を始めるきっかけになった
- (D) 各グループ間の交流ができた
- (E) とにかく楽しかった
- (F) マスコミで取り上げられた
- (G) その他

(財) 千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧

(法人 132 社・個人 57 人 計 189) 1999 年 3 月 31 日現在

*この事業は下記の会員の会費によって支えられています。

〈保険関係〉

大東京火災海上保険(株)
千代田火災海上保険(株)
大成火災海上保険(株)
太陽生命保険相互会社
日本生命保険相互会社
三井海上火災保険(株)
日本火災海上保険(株)
日産火災海上保険(株)

〈金融関係〉

(株)東京都民銀行 神田支店
(株)第一勧業銀行 麹町支店
(株)さくら銀行
安田信託銀行(株)
神田信用金庫
興産信用金庫
東洋信託銀行(株)
三井信託銀行(株)
(株)住友銀行
(株)三和銀行
(株)東京三菱銀行
住友信託銀行(株) 東京営業部
農林中央金庫 東京支店
(株)東日本銀行 飯田橋支店
芝信用金庫
日本信託銀行(株)
中央信用金庫
太陽信用金庫 神田支店
(株)あさひ銀行本店
(株)日本興業銀行
(株)大和銀行
(株)わかしお銀行 本店営業部

〈建築・土木関係〉

大林道路(株) 東京支店
(株)高組 東京支社

西松建設(株)
(株)竹中工務店 東京本店
鹿島建設(株)
三井建設(株)
前田建設工業(株)
(株)大林組 東京本社
大木建設(株)
飛島建設(株) 東京支店
戸田建設(株) 東京支店
(株)熊谷組 東京支店
長野建設(株) 東京本社
(株)高組 東京支店
不動建設(株)
日比谷総合設備(株)
(株)久保工

東洋建設(株) 東京支店
大成建設(株)
鉄建建設(株)
清水建設(株) 東京支店上野事務所
三菱建設(株)
日東建設(株)
佐藤工業(株) 東京支店
(株)フジタ
大木建設(株)
三機工業(株)
鹿島道路(株)
飛島道路(株)
東京舗装工業(株) 関東第一支店
(株)ナカノコーポレーション
常盤工業(株)
東亜建設工業(株) 東京支店
高砂熟学工業(株) 東京本店
タイダン(株) 東京本社
真柄建設(株) 東京支店
(株)長谷工コーポレーション
(株)増岡組 東京支店
ニューウォールシステム(株)

古久根建設(株)

(株)トーヨーコ理研
不動産関係
(株)大京
安田不動産(株)
住友不動産(株)
秀和(株)
三菱地所(株)
三井不動産(株)
三幸エステート(株)
(株)お茶の水スクエア
森ビル産業(株)
大日本企業(株)
協永不動産(株)
(株)共立エステート

〈建設設計〉

日本橋興業(株)
(株)山下設計
(株)松田平田
(株)レック都市地域研究所
(株)アイテック計画
基礎地盤コンサルタンツ(株) 東京支社
(株)アーバントラフィックエンジニアリング
(株)エイディティ計画研究所
エヌティティ都市開発(株)
(株)新都市開発機構
(株)環境開発研究所
(株)桐山設計
(株)丹青研究所
(株)首都圏総合計画研究所
ニッセイエプロ(株)
(株)ADプロジェクト
(株)アルセッド建築研究所
マト設計・コンサル(株)
安田総合計画(株)
(株)アール・アイ・エー

(株)都市環境計画研究所
八重洲コンサルタント(株)
(株)アーバン・ウイング
パシフィック・コンサルタンツ(株)
(株)伊藤建築設計事務所
(株)ラウム計画設計研究所
(株)都市映像研究室
(株)日立建設設計

〈ビル管理〉

東京美化(株)
富士建物管理(株)
鹿島建物総合管理(株)
広告代理業
(株)イサミヤ

〈販売・興業関係〉

(株)伊勢丹
東宝(株)
(株)ごとう東京店
電機・通信関係
(株)日立製作所
日本電気(株)
三菱電機(株)
三洋電機(株)

〈その他〉

秋葉原西口商店街振興組合
東京高速道路(株)
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原商店街振興組合
(株)明正社
日本事務器具(株)東京支社
ヨシモトポール(株)
神保町1丁目南部地区市街地再開発組合
(社)東京都建築士事務所協会千代田支部
丸紅(株)

編集・発行

平成 11 年 11 月発行

(財) 千代田区街づくり推進公社

企画情報課

東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階 TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213
公社ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/citystation/> E-mail:makecity@pop17.odn.ne.jp